

令和2年度 法奥小学校3年生「ブナの森たんけん学習」

8月31日月曜日、十和田市立法奥小学校3年生15名は自分たちのふるさとにある「日本一のブナの木」周辺で、「ブナの森たんけん学習」を行いました。

この学習は、法奥小学校が取り組んでいる「みどりの学習」の一環として、実際にブナの森に行き、森の多面的な役割やそこで生きる生物の大切さなどを学ぶ活動で、三八上北森林管理署と連携して毎年実施しています。

初めに、歩道沿いにある植物を紹介しました。子どもたちは、葉の形を観察したり、においをかいでみたり、樹皮を触ったり、木の実（サルナシ）を舐めてみたりと五感を働かせ森林を体験しました。

日本一のブナの木に関するクイズコーナーでは、授業で十分な予習がされたとのことで、こちらの用意した問題がごとく即答される場面がありました。また、幹周りと同じ6mのロープを皆で広げて太さを確かめ、ブナの大きさを体感しました。

当日は小雨が降り続き、あいにくの天候となりましたが、学んだこと・準備してきた質問への回答等を書き写す紙がボロボロとなりながらも一生懸命書きこんでいました。

この学習をきっかけに、子どもたちが森林に対する理解を少しでも深めてもらい、みどりが豊富な自分のふるさとを誇らしく思ってもらえれば嬉しく思います。



《オオカメノキの特徴等を勉強中》



《サルナシを食味してます》



《ブナの木に関するクイズコーナー》



《ブナの木の太さを体感してます》